

東京大学教養学部

アジア共同体の展望と歴史認識問題

実施期間：2013年10月～2014年1月

第一部 東アジアの歴史認識問題の展開と実状

第1回 外村大（東京大学大学院総合文化研究科教授） 10月1日

「イントロダクション 東アジアの歴史認識問題を考える意義」

内容：東アジアの歴史問題について考えることが今日どのような意義を持つか、いかなる問題とつながっているかを提起する。

第2回 三谷博（東京大学大学院総合文化研究科教授） 10月8日

「東アジアの歴史認識問題の展開過程」

内容：1980年代の教科書問題以降、慰安婦問題、靖国問題、領土問題等、日本を軸とする東アジアの歴史問題について概観し、その背景や意味について考える。

第3回 村田雄二郎（東京大学大学院総合文化研究科教授） 10月22日

「帝国主義の時代の東アジアとその理解」

内容：1910年の韓国併合を前後する東アジアの情勢とそれが中国、韓国、日本等でどう捉えられ、理解されているかを事例に歴史認識問題を考える。

第4回 李海燕（東京理科大学工学部准教授） 10月29日

「境界を生きた人びとの経験と歴史認識問題」

内容：19世紀に「満洲」に移動し、20世紀後半に中国の朝鮮族となった人たちの目から見た、関係各国の「国史」の問題を考える。

第5回 柳美那（国民大学日本研究所研究教授） 11月12日

「朝鮮植民地支配と現代韓国への影響—文化財問題を考える—」

内容：現代韓国では植民地支配がどのように認識されているか、そのことが文化財返還の要求にどう影響しているか、またその解決はどうあるべきかを論じる。

第6回 石坂浩一（立教大学異文化コミュニケーション学部教授） 11月19日

「北朝鮮における歴史認識と過去清算」

内容：日本と国交がなくその地域に生きる人びとの考えが充分伝えられていない北朝鮮では植民地支配の歴史はどのように捉えられているかを紹介する。

第7回 藍適齊（中正大学歴史学系教授） 11月26日

「台湾についての植民地支配経験とその記憶」

内容：台湾人が日本の植民地支配をどのように捉えているか、台湾内部での認識の違いや近年における歴史研究の進展を踏まえて論じて行く。

第8回 松田ヒロ子（神戸学院大学人文学部准教授） 12月3日

「台湾・日本の交流と歴史資源の活用」

内容：植民地時代の遺跡や建築物を台湾の人びとがどのように見ているのかを、近年の日本人との交流による観光資源化の動きなども視野に入れて論じる。

第二部 歴史認識問題の克服の模索

第9回 松本武祝（東京大学農学生命科学研究科教授） 12月10日

「日中韓歴史教科書・共通教材作りの経験と課題」

内容：日本・中国・韓国の歴史研究者、歴史教育者の共同作業による共通の教科書および教材作りへの参与の経験とそこで得られた新たな認識、課題などを紹介する。

第10回 鄒荷芽（内蒙古大学蒙古歴史学系専任講師） 12月17日

「日中韓歴史教科書・共通教材の受容と活用」

内容：日本・中国・韓国の歴史研究者、歴史教育者の共同作業で作成した共通の教科書を実際に使用して授業を行った経験と中国の学生たちの反応を紹介し、問題点を考えていく。

第11回 李洙任（龍谷大学経営学部教授） 1月7日

「市民の協働による新たな歴史認識の可能性」

内容：歴史研究の専門家ではない人びとが身近な地域の歴史の発掘を通じて近隣諸国とのつながりや交流の歴史を認識して行くことの実践事例を紹介し、課題を考えていく。

第12回 大石文雄（NPO 法人在日外国人生活教育相談センター信愛塾理事） 1月14日

「多文化共生社会の展望と歴史認識問題」

内容：日本の教育現場では多様なバックグラウンドを持つ子どもたちが学んでいる。そのことを踏まえて外国人サポートの実践活動家が歴史教育のあり方について提言する。

第13回 朴裕河（世宗大学人文科学学部教授） 1月21日

「歴史和解をどう進めるか」

内容：歴史認識問題にどう向き合うかを論じた著書『和解のために』が韓国・日本等でどのように受けとめられたか、それを踏まえて現在考えていることなどを著者自身が語る。

第 14 回 外村大（東京大学総合文化研究科准教授） 1月 28 日

「授業とレポートをめぐる議論」

内容：全体の授業を受けて出されたレポート、各出講者からの授業を振り返っての意見等を踏まえて、受講者全員で討論を行う。

第 15 回 東アジアの市民の相互理解の展望とまとめの討論 1月 30 日

内容：佐藤洋治ワンアジア財団理事長を迎えて、東アジアの市民レベルの相互理解促進がどうあるべきかを語ってもらい、これまでの授業を踏まえて受講者とともに討論を行う。